

徹子が黙ったとき： テレビトーク番組の相互作用分析¹⁾

南 保輔

キーワード：テレビトーク番組，相互作用分析，インタビュー技法，再演，『徹子の部屋』，『スタジオパークからこんにちは』

1 はじめに

「トーク番組」と呼ぶのだろうか。スタジオにゲストを招き、ホストあるいはホステスとの会話を中心に作り上げられているテレビ番組がある。なかでも同じホステスが一貫して務めているということで有名なのが、テレビ朝日の『徹子の部屋』である。「変化」や「思い出」がどのように語られるかという問題意識を追求する一貫として、トーク番組の比較を行った。同じゲストによる「同じ思い出」の語られ方が、いわゆる文脈というものによって、そしてとりわけホストの聞き出し方によってどのように違って来るかを明らかにすることを目的とした。

番組のウェブサイトによると (<http://www.tv-asahi.co.jp/tetsuko/> 2007年11月7日アクセス)、『徹子の部屋』の放送開始は1976年2月2日で、午後1時15分からの40分番組だった。2007年秋には放送32年目にはいっており、月曜日から金曜日までの週5日放送なので、2007年3月2日には放送8,000回を迎えている。

比較対象としてはNHKの番組『スタジオパークからこんにちは』を取り上げた。NHKにもいくつかのトーク番組があるが、ほぼ毎日放送されている点と、放送時間帯が午後1時5分から2時までで、東京キー局のテレビ朝日で午後1時20分から33分間放送という『徹子の部屋』と重なるという理由からこれを選んだ。ウィキペディアによると (<http://ja.wikipedia.org/wiki/スタジオパークからこんにちは> 2007年11月7日アクセス)、『スタジオパークからこんに

ちは』は1995年4月に開始されている。聞き手は男性と女性のペアで、初代は堀尾正明アナウンサーと4人の女性タレントが組むコンビだった。2000年4月に上田早苗アナウンサーに替わってからは女性のアナウンサーがメインとなった。2004年4月から渡邊あゆみ、2006年4月から有働由美子、2007年6月から武内陶子とメインホステスは替わっている。午後1時5分から放送開始という点は変化がないが、1998年4月からの4年間は14時28分までだったことがある。

トーク番組のゲストを選ぶ基準としては、そのひとの話す内容に話題性があるということがあるのだろう。イギリスとアメリカの「ニュースインタビュー」を比較した Clayman と Heritage は、インタビューのタイプによって「話題の人 (newsmaker) インタビュー」、「背景インタビュー」、「ダイベートインタビュー」の3つを区別している。ある政策の主唱者をインタビューとするのが「ダイベートインタビュー」、専門家をインタビューとしてある出来事についてコメントさせるのが「背景インタビュー」である。「話題の人インタビュー」とは「ニュース」となる出来事の当事者をインタビューとするものだ (2002: 68-72)。

『徹子の部屋』や『スタジオパークからこんにちは』といったトーク番組は、Clayman たちの分類に従えば、「話題の人インタビュー」ということになるだろう。「ゲストをだれにするか、黒柳さんからも提案するんですか」と聞かれて、黒柳徹子 (以下「徹子」とする) は以下のように答えている。

ほとんど私は口を出しません。『徹子の部屋』に出たいといって、私にいろんなものを送ってくる方が、たくさんいらっしゃるんです。それは全部プロデューサーに渡して、「皆さんでお考えください」と言っています。親しい人から来ても、「そちらで協議してください」って。私は自分の意見は言いません。もしも私が意見を言っていたら、こんなに長くは続かなかったと思います。みんながほぼ決めて、そうですね、93パーセントぐらい (笑) みんなが決めた段階で、私に「どうですか?」と言ってきて、「よろしいのではないですか」というのが最終段階です。

(黒柳 2005:11-12)

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』で、後に見るように、それほど間隔をおかずに同じゲストが出演するということが見られた。3節で取

り上げる武田鉄矢のように、『スタジオパークからこんにちは』には番組宣伝のためにゲストとして選ばれているということがはっきりしていることもある。いずれにしても、ゲストはその時点で視聴者の関心を引きつける話題性を有している必要がある。そのためもあって、同じ人物が異なるトーク番組に相次いで出演するということが起こるのだと思われる。

2 方法

本論文で報告する分析は、南が担当する授業の課題として行ったものを土台としている。まず、この課題の説明から始めることにしよう。

成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科の2年生向け必修科目として、「マスコミ基礎演習」という授業がある。マスコミ学科の専任教員全員が担当し、卒業論文作成に向けて学生各自が問題意識を深めていく重要なステップのひとつと位置づけられている。学生10人前後という少人数の半期科目である。南担当のものでは、3つの調査プロジェクトを行い小論文を書くことになっている。1つめがインタビュー調査、2つめが観察にもとづくフィールドノート調査、そして3つめがマイクロ相互作用分析調査である。この3つめの調査プロジェクト素材として、トーク番組を取り上げている²⁾。

音声発話のトランスクリプトを作るという作業は時間がとてもかかる。そして、ひとつひとつの発話について「分析する」という作業は、学生を途方に暮れさせるものだ。だが、この課題を10年以上にわたって課してきた経験から、その意義は十分あると判断した³⁾。

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』の比較には、インタビュー技法を考えるというねらいもある。学生はすでに、インタビュー調査プロジェクトを行っている。トーク番組が、これを反省的に検討する契機となると期待された。どの放送を取り上げるかだが、同じゲストが登場しているものを選びだした。これは、「同じ話」がどのようになされているかを比較することで、「インタビュー技法」の対比がしやすくなると考えたからだ。一例として、表1に2006年後期の授業で取り上げた番組一覧を示す。

1人のゲストにたいして学生は2人が割り振られた。学生はまず最初に、

表1 2006年後期の授業で取り上げた番組

ゲスト名	『スタバ』放送日	『部屋』放送日	先の放送	間隔
武田鉄矢	06年01月12日	06年05月29日	『スタバ』	4ヶ月
緒形拳	06年05月01日	05年11月25日	『部屋』	5ヶ月
南こうせつ	05年11月01日	06年07月27日	『スタバ』	9ヶ月
岡崎朋美	06年03月09日	06年04月05日	『スタバ』	1ヶ月
山瀬まみ	06年10月25日	06年03月03日	『部屋』	7ヶ月
玉木宏	06年02月16日	06年10月27日	『スタバ』	8ヶ月

『徹子の部屋』と『スタジオパークからこんにちは』のどちらかを担当して、番組構成表をエクセルで作成した。表2は、例示用に南が作成した、武田鉄矢がゲストのときの『徹子の部屋』のものである（ただし、配布時そのままではなく、本論文用に修正してある）。

構成表には、番組全体の流れ一覧を示す。トランスクリプトを作成する部分を選びだす助けとするためだ。民放番組である『徹子の部屋』の場合コマーシャルが入っている。その部分をまず区別する。そして、つぎに、部分ごとのテーマにしたがって分ける。『徹子の部屋』の場合、画面の右下にゲストの氏名とともに、その時点の話題がたとえば「年頃の娘たちは……」のようにテロップとして入る。これをすべて拾い出した。表中で引用符がついているのは、テロップであることを示す。ただ、それだけでは部分によってはかなり長いので、そのなかで、さらに話題を細分できるところを分けた。その際に、写真やVTRがあればそれも拾い出すことにした。話題の焦点となることが多いからだ。最後の列に、その部分の鍵となる発話を記録している。学生にはこの構成表を配布して参考にするようにと指示したが、どれだけ忠実にしているかはそれぞれである。

つぎに、作成した構成表を元に分析する箇所を選び出した。それぞれの番組の30秒から1分前後の部分について、トランスクリプトを作成して分析することにした。そのときに、「同じ話」が2つの番組でどのように違っているかという観点から分析部分を選ぶことを推奨した。会話分析の方法では、ある「現象」、たとえばIRE連鎖 (Mehan 1979; 五十嵐 2007:178) の事例をいくつか収集して、それを分析していくということが必要となる。だが、マスコミ基礎演習という授業を履修している学生のほぼ全員が、エスノメソドロジーや会話分析、あるいは、社会学という学問すら体系的に学んでいない。会話分析がめ

表2 武田鉄矢『徹子の部屋』構成表（06年05月29日（月）放送）

開始分秒	テロップなど	写真(P)とVTR	鍵となる発話
00:33	『徹子の部屋』	V：芝居場面	お芝居で、ご自分のお母様を、女形で演じていらっしやるかたが今日のお客様です。
01:03	コマージュナル		[芙蓉商事グループ工房；朝日新聞；アlico保険]
03:03	『年頃の娘たちは…』	P：両親・母親と・母親と	俳優、そして音楽家でいらっしやいます武田鉄矢さん、お客様です。
04:54	『亡き母へ深まる思い』	P：芝居場面	さて、あなたがお母様、母に捧げるバラードも、
07:23	母親の芝居		それで、お母様は8年前にお亡くなりになり、イクさんで
08:46	鉄矢を送りだす母の気持ち	V：27年前の出演	りかい、子どものごことを理解できました、そしたら、
09:08	27年前の初出演	V：芝居場面	でもね、あなた、お母様のごことを27年前、
10:23	『恐怖のタワシ踊り』	VTR終了	とおっしゃっていたのですが、
11:43		P：両親	あれほんとうに音楽、この音楽なんですか
12:42	父親を絞めようかど		あなたのおかあさまはさあ、まえにうかがったけど
13:41	『心に残る母の名言』	P：クラス写真・子どもと	でも、イクさんとおっしゃる
14:27	小学生の頃		食いすぎるといいうんですね。
16:17	子育ての苦労		でもああなたのおかあさまも5人きょうだい、
17:25	コマージュナル		[全塚石；アメリカンホーム保険会社；エバラ]
19:25	『演じて知った親の大きさ』	P：芝居場面・芝居場面	いや、いまビビッカリしたんですけど、
20:33	20万人の観客		でもう、母に捧げるバラードは20万人に近いお客さんに来ていただきましたね
22:42	金八先生		だから、そういうことがあるから、あなたは金八先生
22:51	『どん底支えた妻のひと言』	P：シングルジャケット	マッチが40が41になってるわけじゃないですか、15だったマッチが。
23:08	『母に捧げるバラード』		でも、それのまえに、
24:50	コマージュナル		[大正製薬；やすや；ダスキン；センタン；ヘルシアアウウォーター]
26:20	コマージュナル終わり		それにしても、母に捧げるバラードを4年前におやりにになったときに、
26:51	『舞台で声が出なくなり…』	P：芝居場面	芝居ははも、ダメ声で乗り切ったんですけど、
27:41	『中日福留孝介選手』	P：福留選手	野球選手はまだ菜です。リリーフとか選手交代がありますから。
28:51	茶髪カッブル		それと、やっぱり、劇場によっては、風体がハットとするようなカッブルがいたりする。
29:32	『番組からのお知らせ』		[スタジオ観覧の案内]
30:47	高校生の団体観劇		全員スタンディングオベーション
30:22	コマージュナル	人形	[ボボンC；オムロン；DAKARA；爪虫虫；成田新ターミナル；アースジュエツト]
31:52	コマージュナル終わり		でそのかわいらしいもの
32:19	『母に捧げるラストバラード』	P：芝居宣伝	あのう、娘たちが踊る、タワシ踊りに送られて。
33:00	終了 コマージュナル開始		

ざす「形式」に照準した事例収集は望めない。「内容」に着目した分析とした次第である。

授業では、分析結果を学生が発表した。自分が選んだ部分のトランスクリプトを用意して、その部分についてのビデオ映像を視聴し、観察・分析を報告した。その後、指導教員やほかの学生のコメントをもとに小論文を完成させた。参考として、付録1にその課題の説明用に配布したハンドアウトを掲載しておく。

以上、授業課題の紹介をしてきた。本論文では、次節以降3人のゲストのものを取り上げるが、そのうちの2つは、元は学生が作成したトランスクリプトを利用している。「同じ話題」の部分として報告され、南もたいへん興味深いと思ったものだ。以下は、南の分析手順について記述しておく。

番組は、パナソニックのDVDレコーダ DMR-EH66 を使ってアナログ放送を録画した。DVD 1枚に約2時間録画できる標準のSPモードでハードディスクに録画したものを、DVD-RAMに順次保存していった。分析に際しては、Macを使用してmpegファイル化し、これをmpeg4ファイルへと変換して分析に使用した。使用した機材は、MacBook Pro (17インチ液晶モデル 2.33GHz Intel Core 2 Duo, MJ611J/A) でOSは10.4.10と、ピクセラのDVDスーパーマルチドライブ (PIX-DVRR/FW7)、使用ソフトは、Pixe VRF Browser EX 2.6.3 と MPEG Streamclip 1.8 である。

視聴・分析時に使用したのは、Listen & Type 3.2 というソフトウェアである。これを使うとmpeg4ファイルで、再生時点のコントロールをキーボード上から行うことができる⁴⁾。フレームまで表示する必要があるときに便利だったのは、MPEG Streamclipだ。構成表の作成は、Listen & Type 3.2 を使いながらエクセルで行った。トランスクリプト作成には、egword Universal 2 というMac用のワープロソフトを使用した。

3 「思い出」の語らせ方：武田鉄矢

本節では、武田鉄矢をゲストとする『徹子の部屋』(以下、『部屋』とする)と『スタジオパークからこんにちは』(以下、『スタパ』とする)との比較を行う。1節でもふれたが、本研究の根源的な問題関心は、ひとは昔のことをどの

ように語るのか。その評価と語り方はどのような関係にあるのだろうかというものだ。「思い出」と呼べるようなものがどのように語られるかを調べたいということである。表1に見られるように、武田鉄矢は2006年1月12日に『スタバ』にゲストとして出演し、その4ヶ月半後にあたる5月29日に『部屋』に出演している。これら2つの放送をここでは取り上げる。

3-1 鉄矢『スタジオパークからこんにちは』の流れ

表3は、武田鉄矢（以下、鉄矢）出演時の『スタバ』の構成表である。これを使いながら『スタバ』のおおまかな流れをまず説明する。キャスター2人がゲストをスタジオの外で迎える。そこで簡単な紹介をしてから、トークを行うスタジオへ歩いていく。そのあいだは番組のテーマソングが流れて、観客と握手したり手を振ったりしながら歩くゲストの姿が映し出される。たいていのゲストが観客と握手をしていると思いついていたのだが、鉄矢は水仙の花束を両手で抱えているからか、観客と握手するという事はなかった。

この日は福井県からやってきた「水仙娘」が登場して、ゲストの鉄矢に花束を手渡したが、このような演出はそれほど多くないという印象がある。また、冒頭部分で注記しておくべきは、渡邊あゆみキャスターの「あらためまして」という開始のことばである。これは、この部分が第2部という位置付けになっていたからだ。12時20分から12時43分までの『生中継ふるさと一番!』という番組が第1部で、その終わりのところで渡邊が第2部の宣伝をかねてゲスト紹介をしていたという記憶がある。ちなみに、2006年4月からはそれぞれが別番組という扱いになっている⁵⁾。

『スタバ』も『部屋』と同じく、ゲストとホスト（『スタバ』では「キャスター」と呼んでいる）とのトークがメインである。その最後の部分は、視聴者からの質問にゲストが答えるコーナー、「暮らしの中のニュース解説」というゲストがお休みする部分、そして、エンディングは視聴者からのメッセージを紹介する部分からなっている。全体で54分間という長さだが、41分すぎからの13分間弱がこの部分となっている。そのうち「暮らしの中のニュース解説」が8分間なので、ゲストの「出演している」時間は全体で46分間ということになる⁶⁾。

質問コーナーが始まるまでの、メインとなるトーク部分は、大きく3部に分

表3 武田鉄矢『スタジオパークからこんにちは』構成表 (06年01月12日(木)放送)

開始分秒	テロップなど	写真(P)とVTR	變となる発話
00:01	開始		あらためまして、スタジオパークからこんにちは
00:28	鉄矢登場；水仙娘		どうぞ、お入りください。
02:05	「質問・メッセージ募集」		【スタジオへ移動する】
03:02	「2歳のころ」	P：アップ	きょうは、俳優の武田鉄矢さんをお迎えいたしました。
03:34	「小学生のころ」	P：森の石松	けっこう、面倒見のいい
04:22	「中学生のころ」	P：坊主頭	柔道部にはいつていたそうで
04:35	「高校生ころ」	P：制服姿	無我夢中で柔道やってたんじゃありませんかね。
05:14	目立ってもいいかな		当時はどうでした。もてるタイプのご様子で。
06:01	老け顔は得か		あんだ、何年たぶつとうと聞かれたことありますね。
06:49	コンプレックスのかたまり	ボード	高校3年生のときに『龍馬がゆく』つてのを讀むんですよ。
08:12	「武田鉄矢3つのキーワード」	P：長髪	こういうキーワードで、ちよつとつづつてみたいと思っんですが
08:29	「海援隊 デビューのころ」	V：紅白歌合戦	この海援隊、デビューはすんなりと
09:31	詫び証文としてのバラード		1年だけやらしてくれて、母親との約束でしたから、
11:08	「海援隊 (初出場)」		【第25回紅白歌合戦 (1974年)】
11:56	母の反応		異様な顔してますねえ
12:25	「母・イクさん」	ボード	舞台にするほどあります。みなさん、ぜひ、見に来てくださいいね。
12:37	舞台写真	P：豆腐売りの母役	【舞台「母に捧げるバラード」(2002年)】
13:09	「母イクさん」	P：母親と鉄矢	總い物やって、たばこ屋やって、将校のメイド
13:34	「有名になった母」		兄が言った、さびしいギヤグをいまでも覚えてますよ。
14:48	「幸せの黄色いハンカチ」	P：映画場面	【高倉健と桃井かおりと3人で】
15:59	【金八先生】		それいよ、金八先生と呼ばれるようになって
16:03	【3年B組金八先生第1シリーズ(1979年)】	P：金八先生役	さいしよ、杉田おおるさんたちなんて、もう、私たちですから。
16:12	【3年B組金八先生第1シリーズ(2004年)】	P：金八先生役	だから、先生も25年ささつてるつて。
16:35	このB組の巧名が辻		これも因縁でねえ、みなさん、ちよつと聞いてください。なかなかおもしろい話ですすんで。
17:20	配役図	ボード	そういえば、こういう役ですもんね。
18:32	「武田鉄矢流功名が辻の楽しみ方」	VTR	おもしろいですよ。今年の大河は。
19:21	「まじめで律義な男」	ボード	【山内一豊】；【かしこく】；【美しい】；【奏・千代】
22:44	仕えているひとは	VTR	ここで次のポイントは、
23:04	改革者		【戦国時代】；【カリスマ】；【織田信長】；【徳とよはれた男】；【人たらし】；【豊臣秀吉】
24:08	信長軍の旗		いまで言うとうと、IT関連の人ですよ

25:14	千代が亭主を撮る			
25:58	五藤吉兵衛と祖父江新右衛門	ボード		
26:17	「痛快名コンビ!」	V：登揚場面		
29:40	五藤さんのお慶敷			
30:20	なるべく殿や千代の芝居が際立つように			
31:20	「祖父江新右衛門役前田吟さん」	V：メッセージ		
32:30	がんばりましょう			
33:08	「命」	ボード		
34:07	かつこ良く、死んでください。			
35:08	思えば悪くへきたもんだ	観覧席風景		
35:25	「渡辺あゆみの蔵出しトーク」	アニメ映像		
35:55	絵を描いてリラッククス スケッチブック中の絵			
40:18				
41:13	「もっと聞きたいスタバでQ?」			
44:00	「暮らしの中のニユース解説」			
52:15	「質問・メッセージ受付は終了しました」			
52:30	メッセージ紹介	色紙		
54:00	終了			

でも、その裏っかわでは、ゆっくりにやりやばり、仲間さん演じる千代が、しかし、その山内一豊に、もう忠義の、まあ家臣だった、この2人

「大河ドラマ功名が辻第3回（1月22日放送予定）」

すいません。だんだん、なんか、よくわかんなくなってきました。

さあ、それで、このふたりをどういうふうに、あのう、名コンビですから、このせりふはおれのせりふだったんだけど、武田さんが言ったほうがいいんじゃないか

あうんの呼吸が楽しめそうですね。

総括して、テーマは。

だってね。子孫のひとつて、不思議なこと言いますよな。

武田鉄夫さんへの質問・メッセージ、お待ちしています。

画材です。これは、武田さんがお使いのものでですか。

スケッチブック

[左手；足；顔；ほおずき；山古志；女性の肉体；阿修羅像]

たくさん描きたいものがどんどん出てくる

[身体のために；チャレンジしたいこと；願いがかなうとしたら；座右の銘]

豪雪の被害と気候変動 山崎登解読委員

いちおう、顔をかいておきます。

えー、座間市の xxx さんという方（全5つ）

けることができる。鉄矢のプロフィール、大河ドラマ『功名が辻』のエピソード、そして、鉄矢の趣味の絵描きについて、である。このうち、3つめのコーナーには「渡邊あゆみの蔵出しトーク」という名前がついている。後藤はいなくなって、渡邊との一対一のやりとりとなっている。このあとの「暮らしの中のニュース解説」では解説委員の聞き手を後藤が務めるため、それに備えているのかとも思われる。

スタジオ内での配置を説明しておこう。中央に応接セット風の、やや低めの円卓がある。正面から見て、その右側にゲスト用の2人掛けソファ、左側に1人掛けの肘掛け椅子が2脚置かれている。ソファの右側にワゴンタイプの物置があり、鉄矢は着席するときこの上に水仙の花束を置いた。円卓の奥には丸い台がある。ボードが置かれるものだ。キャスターは左側の肘掛け椅子に座るが、中央よりに渡邊、左側に後藤が座る。VTR が流されることがあるが、そのディスプレイは画面からは見えない⁷⁾。

断片1 ゲスト登場時の紹介 (00:20-00:28)⁸⁾

- 01 後藤： → ゲスト、ご紹介しましょう。今月のようから
 02 → 始まっています。大河ドラマ、功名が辻ご出演の、
 03 → 武田、((ここで画面右を向く))
 04 → ((お辞儀をしながら) 鉄矢さんです。
 05 渡邊： どうぞ、((画面右を向く))
 06 ((右手で後藤との間の画面中央を指しながら))
 07 おはいいください。
 08 鉄矢： ど：も。
 09 一同： ((拍手))
 10 鉄矢： ((画面右袖より中央へ入ってくる))

鉄矢が『功名が辻』で重要な役を演じているというのが、この日のゲストとなっている最大の理由である。2006年は1月8日が日曜日で、大河ドラマ『功名が辻』の初回の放送があった。山内一豊の妻千代がドラマの主役だが、その準主役にあたる一豊の「忠義の家臣」、五藤吉兵衛を鉄矢が演じている。1月12日の木曜日という出演日はドラマの初回放送から4日後であり、メインのトーク部分の2つめがこの話題に割かれている。そのことは、ゲスト紹介の部分

にもはっきりと表現されている（断片1）。キャスターの2人が画面中央に並んで立っているところへ、ゲストの武田鉄矢が入ってくる部分である。後藤が「大河ドラマ『功名が辻』ご出演の武田鉄矢さんです」と紹介している（01-04行）。その大河ドラマが「今月の8日から始まっています」というふうには、大河ドラマの「宣伝」であるとはっきりわかる。

実際、表3に見られるように、16分35秒から35分08秒のまえまで約18分間がドラマ『功名が辻』の話題に割かれている。登場人物の紹介的な配役図、番組宣伝のVTR、そして、共演者の前田吟からのメッセージVTRとさまざまな形式でドラマを紹介している。そのなかで、鉄矢にはこのドラマの「武田鉄矢流の楽しみ方」を「教授する」ということが求められている（断片2の03-04;06行）。

断片2 講師としての鉄矢（18:16-18:29）

- 01 渡邊： いまちょっとあのう、こうして見ていただいてる
 02 人物：のなかで、.hh きょうはですね。この功名が
 03 → 辻の、武田さん流の、楽しみ方を、あたくしたちに、
 04 → ご教 [授] いただい [て] 。]
 05 鉄矢： [聞いてください。]
 06 渡邊： → と思いま [す]。
 07 鉄矢： [おもしろいですよ、今年の大河は。]

この部分では、キャスターは鉄矢のことを「先生」と呼ぶことがあった。これは、鉄矢が『3年 B 組金八先生』という人気テレビドラマシリーズの主人公教師役を演じているということもあるだろう。それに加えて、歴史が好きで知識が豊富ということもあるのだろう。鉄矢はもともとはシンガーソングライターで「海援隊」というバンドのリーダーだった。これは、幕末の土佐脱藩浪士坂本龍馬が長崎で結成した組織の名称である。この日の番組でも述べられていたが、坂本龍馬の大ファンである鉄矢は幕末史に詳しい。龍馬時代に土佐藩の実権を握っていた山内容堂の先祖にあたる山内一豊の家臣役には心理的に抵抗があったということも紹介している。

3-2 鉄矢のプロフィール

3-1では、番組の構成を述べつつその特徴を紹介してきた。本項で取り上げたいのは、トークの最初の部分である。そこでは、生い立ちというか「プロフィール」が語られている。ふつうよく写真も紹介されるところだが、鉄矢のときは、「2歳のころ」、「小学生のころ」、「中学生のころ」、「高校生のころ」と4枚の白黒写真が映し出された。そのころはどんな子どもだったのかといった話題が語られることになる。

ちなみに、この話題は番組初登場のときに限られるのかもしれないと調べてみたところ、ウェブ上での検索の結果、2002年4月30日にも鉄矢はスタパに出演していた。そのときのウェブサイトを見ると、海援隊の3人が写っている(<http://www.nhk.or.jp/park/guest/guest03.html#>より)。そのときには、ひとりひとりのプロフィールをあまり詳細に紹介しなかったということがあるのかもしれないが、番組そのものを見ていないので推測の域を出ない。

生い立ちの「プロフィール」紹介に続いて、08分12秒から、「芸能人」としての活動が話題となる。ボードに鉄矢の顔写真と、「武田鉄矢3つのキーワード」とあり、「海援隊」、「母・イクさん」、「金八先生」と書かれたものを渡邊がとりだす。「こういうキーワードでつぶってみたいと思うんですが、まずはやっぱり海援隊ですよええ」と言いながら渡邊は3つのキーワードを導入している。

海援隊というフォークグループは、『母に捧げるバラード』という曲で大ヒットし、それで1974年に紅白歌合戦に出演している。博多で活動していた海援隊が上京して歌手デビューし、大ヒットにつながるまでの経緯がまず話題となる。そして、11分08秒から47秒間ほど、紅白初出場時のVTRが流れる。その後、渡邊は母親がこの曲についてどんなことを言ったかを話題にする。そして、12分25秒から「3つのキーワード」の2つめである「母・イクさん」へと移る。

断片3 「海援隊」から「母・イク」へ (12:21-12:38)

- 01 渡邊： → もう、おかあさまの、このエピソードっていうのは、
 02 [もういろいろ
 03 鉄矢： [やまほどあります。

- 04 渡邊： ね：え？
- 05 鉄矢： 舞台にするほどありました。舞台にし、
- 06 渡邊： それで、舞台になったんですね。
- 07 鉄矢： そうです。
- 08 後藤： そうですよ。
- 09 渡邊： なんか今年もさ、また、
- 10 鉄矢： みなさん、ぜひ見に来てくださいね。
- 11 あ の、母親イク、もう死んじゃったんですけど
- 12 やっぱ忘れたいもんですから、
- 13 舞台にして＝
- 14 渡邊： ＝ええ＝
- 15 鉄矢： → ＝こんどはパートツーなんですけど＝
- 16 渡邊： → ＝ええ、続編ってことですか、

断片3がその転換点である。その直前には、『母に捧げるバラード』という曲にたいする母親のコメントが、発売直後とヒット後で激変したと鉄矢が話して、キャスター2人が大笑いをしている。そして、母親を題材とした舞台の話題が始まる(01行)。2002年に、ヒット曲と同じ『母に捧げるバラード』というタイトルの芝居をしている。鉄矢は主人公の母親役をしているが、15行から16行のあたりでその写真が映し出される。ラップを首からぶらさげた豆腐売り姿だが、その当時の母親のエピソードが紹介される。豆腐を売っていたときに自転車ごとひっくり返したことがある。そのときに、砂まじりの豆腐入りみそ汁を飲まされた。鉄矢の兄が、砂の粒を「石英」だ「玄武岩」だと言って、笑い話にしようとしたというのである。

ここで注意しておきたいのは、舞台は話題になっているものの、母親について語るための手段であって、舞台そのものが話題になっているのではないということだ。公共放送としてのNHKの方針の現れだろう。ただし、番組のホームページでは、この年の6月に行われる続編の舞台公演情報は掲載されている⁹⁾。

付録3は、14分47秒から15分58秒までの部分の発話を文字起こしたトランスクリプトである。『徹子の部屋』と「同じ話題」であると言い切ることができる箇所であり、比較のために詳細に見ておきたい。ここは、3つめのキーワ

ードである「金八先生」につながる導入部分と位置づけることができる。歌手だった鉄矢が「俳優デビュー」（付録3の03行）をしたときのことが話題となっている。山田洋次監督の『幸せの黄色いハンカチ』への出演依頼があったときの驚きと、撮影時の2人の大先輩俳優（「日本がほこる有名な俳優さんふたり」（15-16行））との交流が話題となっている。この部分の冒頭、付録3の01行の「でそれで燃えて」の直後あたりで画面は映画の1シーンが映し出される。高倉健と桃井かおり、鉄矢の3人が写っている。すぐに、テロップで「幸せの黄色いハンカチ（1977年） 監督：山田洋次・資料提供：松竹」と右下に出る。

この部分の特徴としてまず目につくのは、「インタビュー」という言葉から想起されるインタビューアーによる「質問」とインタビューイの「回答」という「隣接対」（Schegloff 2007）が見当たらないということだ。鉄矢が「物語」というか、ほぼひとりで語り、それを2人のキャスターが聞くという形になっている。まず、出演依頼があって、共演する俳優がだれかを聞いたときの驚きについて（05-13行）。そして、2人にかわいがられたということ（15-24行）。ついで、高倉健と渥美清との具体的なエピソードがそれぞれ順番に語られる（26-29行と32-47行）。これらの4つのまとまりのうち、2つめから4つめのまとまりの最初の部分は鉄矢の発話から始まっている。「ほくはこの作品で、日本がほこる有名な」（15行）、「健さんは、ほくが山田監督の演出がきびしくて」（26行）、「っから渥美さんは、あの」（32行）といったものだ。この部分全体として、「俳優デビューもなさって」（03行）という渡邊の発話にたいする応答となっているといえよう。鉄矢による発話開始は、それまでの部分をキャスターが受けとめたところで行われている：「ね：：え、ほんとに」（渡邊の14行）、「へえ：：」（渡邊の25行）、「ふ：：：ん」（後藤の31行）。

2つめの特徴は、発話を鉄矢が再演していることだ。表4にそれを示すが、出演依頼時の山田監督（と想定される）とのやりとり（01-03行）と、映画撮影現場での渥美清とのやりとり（05-08行）である。以下に述べるように、再演とは口調を模倣したりして演じるものだが、表4にはそういったバラ言語的な特徴は表記していない。

表4 再演発話リスト2つ

- 01 山田： 映画に出てみないか？
 02 鉄矢： いっしょにやるのはだれですか？
 03 山田： 高倉健というひとだ。
 04
 05 鉄矢： あの、寅さん、寅さんとよばれて、
 06 渥美さんもたいへんですねえ。
 07 渥美： てっちゃん。あのね、役者がね、
 08 あの、役名で呼ばれるってなあ、名誉なことだよ。

再演 (replay) を定義しておこう。過去に発せられた発話を引用する場合には、いわゆる「直接引用」と「間接引用」を区別できる。これらの区別が文法的にはっきりしている例としては、英語の書き言葉が挙げられる。だが、話し言葉の場合は文体上ではその区別はあいまいとなる。その発話の仕方、つまり、パラ言語的要素が決め手となる。ここでは、想起・報告対象となっているオリジナルの場面における発話を模倣し演じている (play) と聞こえるので、再演と呼んでいる。ゴフマンのフッティング論文の用語を使えば、「アニメーター (animator)」ということになるだろう (Goffman 1981b: 144)。

もちろん、ゴフマンが指摘しているように、オリジナルそのままというわけではない (1974: 504=386)。

繰り返そう。物語や逸話、つまり、再演すること (replaying) は過去の出来事のなんらかの報告にすぎないというわけではない。真の意味で、それは、実際のあるいは潜在的な参加者という人としての視点から表現されている (couch) ような陳述なのだ。そしてその参加者は、報告される出来事の、ある時間的かつ劇的な展開がその出発点から進行するような位置に立っているのだ。それゆえに、再演することは、ついでに言うと、起こったことに聞き手が共感的に入り込み、想像的に (vicariously) 再体験することができるなにかとなるのだ。要するに、再演することは個人的経験を詳述する (recount) ものであって、単に、ある出来事を報告するものではないのだ。

一字一句そのままに引用されているということよりも、そういった趣旨のことが言われた。そして、それがそれらしく模倣、再演されているということだ。

この例でとくに顕著なのが、43-44行の「てっちゃん。(.) あのね、役者がね、あの、役名で呼ばれるってなあ、名誉なことだよ:」という発話を、鉄矢が渥美清の口まねをしながら演じているところだ。このような力のこもった再演は、発話まとまりの終わりを形づくるものとなりやすい。実際に、ここでもそうになっている。しかも、キャスターの渡邊は再演されている発話の内容が鉄矢にもあてはまると言って、話題を転換させている。つまり、鉄矢が「金八先生」という役名で呼ばれるようになったということだ。

「思い出」、過去のことを語るのに、ある特徴的な場面を描写するというやり方があるだろう。表4のような再演は、そのようなやり方のうちの重要なもののひとつだ。鉄矢が2回もこれを使っていること、しかも、それがインタビュアーからの働きかけなしに自発的に使われていること。これを、『母に捧げるバラード』から『3年 B 組金八先生』までの時期についての『スタジオパークからこんにちは』におけるトークの特徴として指摘することができる。

3-3 徹子の引きだし方

前項において、鉄矢が出演した『スタジオパークからこんにちは』の構成と特徴を見た。ここでは、同じ鉄矢がゲスト出演した『徹子の部屋』を取り上げる。とくに、付録3とほぼ「同じ」経験を語っている部分に照準して、その語り方、徹子の話の引きだし方の特徴を検討する。

まず、構成表(表2)をもとに番組全体の流れを確認しよう。この番組は2006年5月29日の月曜日に放送されている。『スタパ』の4ヶ月半後ということになる。徹子が画面に登場してから、最後の登場場面まで33分間あるが、その間に4回コマーシャルタイムが入る。2分間のものが2回と1分30秒間が2回、合計4回で7分間ということになる。残りの「本体」の時間は26分間ということになる。写真とVTRを取り混ぜるという演出は『スタパ』と共通している。

『スタパ』との大きな違いのひとつは、生放送ではない点だ。徹子は「一切編集をしないことにしたんです。生放送と同じようにや」っていると言っている(2005:8)が、「まったく同じ」とは思えない。とくに、画面右下に映し出されるテロップだが、収録後に入れているものと推測される。生番組のスタパではそういったことはできないだろう¹⁰⁾。

この日の番組冒頭で、徹子は「お芝居で、ご自分のおかあさまを、女形で演じていらっしゃるかがきょうのお客さまです」と鉄矢を紹介している。つまり、舞台を中心的な話題とするということを宣言している。もちろん、その舞台の主人公である鉄矢の母親イクの人生を含めてのことである。番組中に流される2つのVTRのうちの1つは、4年前の舞台のときのものである。1分20秒にわたって、鉄矢演じる母親イクが「タワシ踊り」を踊る場面が映し出される。また、パート2にあたる続編が放送日翌週の6月4日から始まるが、その案内ポスターも映し出される。「ご成功祈ってますけど」というのが、最後の挨拶のまへの徹子の発話だった(断片10の37行)。

付録4が本項で注目する部分である。これは、開始から23分07秒から24分50秒までのところの発話を文字起こしたものだ。画面右下に「武田鉄矢/どん底支えた妻のひと言」というテロップが、22分51秒から出ている。その直前は、テレビ番組『3年B組金八先生』に初めて出演したのは29歳のときだったという話である。

この部分は、前項で取り上げた『スタジオパークからこんにちは』と同じく、鉄矢の人生において、海援隊の『母に捧げるバラード』の大ヒットから一転して貧乏生活となり、その後映画の『幸せの黄色いハンカチ』に出演するという、『金八先生』前までの時期が話題となっている。テロップにあるように「どん底支えた妻のひと言」と映画出演依頼の話とが話題となっている。前者が中心であることは、テロップのほかに、それを引き出すのに徹子が費やした努力にも見て取ることができる。

まず、金八先生という話題にすでに入っているのを、いちど時間の流れを引き戻す必要がある。付録4の01行で「そうですね、でも、そのまえにまた」と言いながら徹子はそれをしている。そのときに「そのまえに」の「まえに」に強調が置かれている。これは、メイナードたちが「レトリックを演じること (performing the rhetoric)」と呼んだ、からだの動きを伴うもの (Maynard & Schaffer 2002: 230-) だ。メイナードたちは、アメリカの大学のサーヴェイリサーチセンターでの電話インタビュー時のインタビューアのふるまいをビデオ録画して分析している。この研究では、過去に調査協力要請をして拒否された世帯への再電話を取り上げている。なんとか説得しようとするインタビューアが、強調して発話するときに手を動かして「その強調を助け、

それによって表現力を高めて、受け手に対するレトリック上のアピールを生み出している」と述べている (Maynard & Schaeffer 2002: 235)。徹子の「まえに」という発話は、両手の動きと同期している。軽く胸の前に上げた両手をいちど右手に振ってから、それを「まえに」と言いながら左に両手をそろえながら平行移動させる。これは、話題となっている時点を引き戻すという視覚的なイメージと解釈することができる。この動作とともに、発話の音量が大きくなっている。

この連鎖のピークは、鉄矢の妻が「ここをよく見とこうね。ここがどん底だから。あとは上がるだけ」と言った言葉だ (46; 50; 52行)。それを引きだすために、徹子はそのときの状況を鉄矢と紡ぎだすことから取り掛かる。まず、「どん底」を描写するところから始まる。それは、「母に捧げるバラードでバーンて有名におなりになって」(03-04行)という、栄華の確認から始まる。この発話では「バーン」が強調されて発話されている。身ぶりとしても、ひざよりちょっと上で上向きにした両手を持ち上げるような動作をしている。なにかをひっくりかえしたときの身ぶりのようにも見えるものだ。ともあれ、このような身ぶりが伴うことで「バーン」が強調されている。

断片4 「どん底」の描写 (23:07-23:54)

- 08 鉄矢： =そうですね2年ぐらい仕事なくて：
 09 それで女房妊娠しちゃって：
 10 (.)
 11 徹子： でなんかお皿洗いかなんか [してたの
 12 鉄矢： [そうですねスナックで=
 13 徹子： =原宿でね
 14 鉄矢： スナックの、あの：台所のほうで、.hhh
 15 ふたりでい：ん5千円もらうために
 16 (.) あの皿洗いをしたことが [あります
 17 徹子： ➡ [みなさん信じられますか
 18 ➡ 母に捧げるバラードがありだけヒットしたのに：
 19 .hhh そのあとなんだかお仕事がなくなっちゃって
 20 ➡ お皿洗いしてた。それで、hh 紅白歌合戦が始まるころ (.)
 21 鉄矢： ええ [ええ

- 22 徹子： → [に：閉めて (.)
 23 鉄矢： はい
 24 徹子： → 初詣の人がくるときに (.) 帰る。
 25 鉄矢： はい。女房と [ふたりで、
 26 徹子： [お店を閉めて、うん。
 27 鉄矢： はい。でタクシー代がもったいないんで：
 28 妊娠何ヶ月6ヶ月でしたけど
 29 徹子： [うん
 30 鉄矢： [女房といっしょに、.hhhhh やっぱりあもう：：
 31 除夜の鐘の鳴る夜をね：=
 32 徹子： =うん

その後の「どん底」ぶりは、妻が妊娠してお金がなくて、2人で「5千円」をもらうためにスナックで皿洗いの仕事をしたという状況で特定される。それを、徹子は「みなさん信じられますか。母に捧げるバラードがありだっけヒットしたのに」(17-18行)という、良い時との対比でコントラストを強めて視聴者に直接問いかけ、訴えている。とりわけ、「紅白歌合戦が始まるころに閉めて」(20;22行)、「初詣で人がくるときに帰る」(24行)という部分がポイントだ。この番組では触れられていないが、海援隊は『母に捧げるバラード』で大晦日の紅白歌合戦に出場している。歌手としては最高のひのき舞台に立った人間が、数年後にはその時間帯に皿洗いの仕事をしているという対比だ。この対比は視覚的にも強調される。19行から28行のやりとりが行われているあいだ、画面には『母に捧げるバラード』のシングルレコードのジャケットが映し出されているのだ。

断片5 「どん底支えた妻のひと言」(23:54-24:14)

- 33 鉄矢： → ふたりで歩いた思い出ってゆうのは
 34 徹子： → でそのときあなたの奥様は>な：んでひとの話を
 35 → こんなよくおぼえて [るのかしらく
 36 鉄矢： → [((哄笑))
 37 徹子： → あなたの奥様が：
 38 鉄矢： → >いいこといっぱいある [んですけどく

- 39 徹子： → [これ以上悪くはならない
40 → [わねと
41 鉄矢： → [は：い
42 徹子： >おっしゃったんじゃない (.)
43 → [そうじゃありません？<
44 鉄矢： [はいはい。
45 徹子： うん。
46 鉄矢： あの、ここをよく見とこ：ねって
47 突然ゆうもんです [からねえ
48 徹子： [ん：
49 鉄矢： なんでだ：ていったら
50 いや、ここがどん底だからってゆう
51 徹子： ふ：ん。
52 鉄矢： もう、あとは上がるだけってゆう
53 徹子： ね：↑え
54 鉄矢： ええ

徹子のリードによって、鉄矢はそのときのことを語る。それで、「ふたりで歩いた思い出ってゆうのは」(33行)とまとめるような発話をしたところで、徹子は言わせたいせりふを言ってみせる。「あなたの奥様がこれ以上悪くはないわねとおっしゃんたじゃない」(37; 39; 40; 42行)と言って「は：い」と鉄矢が答えると(41行)、「そうじゃありません？」(43行)とさらに「追い討ち」をかける。それで、ようやく鉄矢が再演を始めることになる。表5は、再演されたやりとりをわかりやすく示したものだ。

表5 「妻のひと言」の再演

- 01 妻： ここをよくみとこうね。
02 鉄矢： なんでだ？
03 妻： いや、ここがどん底だから。もう、あとは上がるだけ。

歌の大ヒットと紅白歌合戦出場という栄光と、皿洗いの仕事からタクシー代節約のために妊娠6ヶ月の妻と除夜の鐘を聞きながら歩いて帰るという「どん

底」の対比、そのときに語られた言葉という、まさに「どん底支えた妻のひと言」がこのようにして引き出されている¹¹⁾。

これがスムーズなものでなかったということは、そこまでにかかった徹子の努力に見られるのみならず、「な：んでひとの話をこんなよくおぼえてるのかしら」(34-35行)と徹子が自己言及的に発話しているところにも見て取ることができるだろう。これには鉄矢も大笑いで応じて(36行)、「いいこといっぱいあるんですけど」(38行)と早口で挿入的に発話するというこもしている。そうして、ようやくなを言わせたいのかがわかったという理解を示していると言うことができるだろう。つまり、「いいこともいっぱいあって、そちらを話すこともできるんだけど、徹子さん、あなたはわたしに、あの妻のひと言を再演させたいのですね」と解釈できるようなものだ。

ここまでの部分では、明示的な質問形は使われていない。これは前項で取り上げた『スタバ』の部分と共通している。2つの番組の最大の違いは、徹子がすでに聞いた話、知っていること(既知情報)をうまく使おうとしており、そのことが見て取れるということだ。この部分の最初となる、「ほ：んとに仕事がないってお話ここでしてくださったじゃない」(06-07行)という発話、そして、「でそのときあなたの奥様は」と始めて「な：んでひとの話をこんなよくおぼえてるのかしら」と自己言及発話をしながらも再演を示唆したところ(34-35行)、そして、3つめとしては、59行の拍手を挙げることができる。

「どん底支えた妻のひと言」をようやく引きだした徹子は、金八先生の話題に行こうとする(断片6の55行)。それを、鉄矢は「あっ、黄色いハンカチが来るんですよ」と修正している(56-57行)。鉄矢は「あっ」というマーカーで驚きを標識して、「正しい」流れを提示する。これを徹子も「あっ、黄色いハンカチが来たんだ、山田洋次さんの」と受諾している(58-60行)。しかも、「黄色いハンカチが」の直後に手を打ち鳴らしているようだ。「パン」という音が聞こえ(59行)、その直前部分の映像は鉄矢アップのバストショットなのだが、その端っこを手らしきものが横切るのが見える。徹子が手を打ち鳴らそうと動かしているところだと思われる。この拍手は、覚えているべきものを忘れていて、それを思いだしたということを表示するものと解釈できる。つまり、徹子は自分が知っているべきだったという認識を示したというわけだ。62行の「そう」の5連発も、この修復作業の一貫と考えられる。また、この後の部分

は83行まで2人の重複発話が多いが、それも、鉄矢の大きなターニングポイントである映画初出演依頼の話題をすっ飛ばしたことへの徹子の「焦り」が影響していると考えられるかもしれない。

断片6 黄色いハンカチ出演依頼 (24:14-24:50)

- 55 徹子： → そのあと金八先生 (.) にな [ったわけ
56 鉄矢： → [あっ、黄色いハンカチが
57 → 来るんですよ。
58 徹子： → あっ、黄色いハンカチが [来たんだ、山田洋次
59 → [パン ((手を叩く音))
60 → [さんの。
61 鉄矢： [も：う、
62 徹子： → [そ：そ：そ：そ：そ
63 鉄矢： [ほん、そ、その話しをして、(.) にさん週間で
64 黄色いハンカチのお話しが来るんです
65 徹子： ん：：
66 鉄矢： もうそれはもう、ほんとに、ゆめのようでしたね=
67 徹子： =映画ですもんねえ=
68 鉄矢： = [映画で
69 徹子： = [主演級の役ですからね。
70 鉄矢： しっかもトップバッターで
71 主演の人は高倉 [健
72 徹子： [しかも高倉健さん (.) と
73 [ごいっしょ
74 鉄矢： [ほくね、渥美清さんのまえに名前があったんですよ。
75 徹子： (.) (あ、[そう)
76 鉄矢： [それがね、売れない自分にとってどれほど
77 奇跡のような仕事か：
78 徹子： ね：： [え
79 鉄矢： [え：え：
80 徹子： それで：金八先生になって
8 鉄矢： [そうです
82 徹子： [いくわけです [よねえ：
83 鉄矢： [はい

- 84 (.)
 85 徹子： まあねえ：
 86 鉄矢： でも ((音声カット))

徹子個人の記憶力、あるいは、徹子個人の体験に基づく記録がトーク内容の基盤にあるのをここに見てとることができる。それは、32年間休まずにホステスを務めてきたこと、そして、過去の映像を活用していることとも関係しているだろう。ちなみに、この放送をさかのぼる27年前の1979年に鉄矢は『徹子の部屋』に初出演しており、この日の番組でもそのときのVTRがちょうど1分間流される(09:23-10:22)。『スタパ』では見られない演出である。1979年は『金八先生』が始まって、「どん底」を抜け出した時期だと思われる。残念ながら、「どん底支えた妻の一言」がこのときの番組で語られたかどうかは不明である。

3-4 『スタジオパークからこんにちは』vs. 『徹子の部屋』

これまで見てきたように、鉄矢の芸能生活の一時期、『母に捧げるバラード』の大ヒット後から『3年B組金八先生』での大ブレイクまでの期間についての2つのトークを見てきた。「どん底」と『幸せの黄色いハンカチ』出演というトピックがあった。スタパでは「どん底」は話題とされなかったのにないて、徹子はこれを焦点にしていた。しかも、引き出したい発話を明瞭に設定して、それがうまく引きだせるように、そして、それが出てきたときには連鎖の山場、おちとなるようにと工夫されているようすがうかがえた。

2つの番組に共通していたのは、少なくとも照準した部分では、明示的な質問形式は使われていなかったことだ。とくに、『スタパ』では鉄矢が「ストーリーテリング」をしていたとでも言えるほどに、自発的に話していた。また、どちらにおいても、鉄矢は再演をしていたが、『スタパ』における渥美清の再演がいちばん凝ったものだった。これは、鉄矢自身が大切にしている「思い出」ということも関係しているのかもしれない。

2つの番組の比較点として、さらに2点を指摘しておきたい。まず、ホストの年齢である。ウィキペディアによると、黒柳徹子は1933年生まれとある。「テレビ誕生とともに生まれた日本初のテレビタレント」と評されているが、

芸能界の事情には詳しい。それに対して、『スタパ』の渡邊あゆみは1960年生まれ、後藤理は1974年生まれとある。1949年生まれの鉄矢より10歳以上若い。そのために、『スタパ』で鉄矢が坂本龍馬を主人公としたNHK大河ドラマの『竜馬がゆく』を熱烈に語ろうとしたときも、見た記憶がないためにうまく合わせるができなかった(断片7)。「あ、タイトルバック、ねっ」(03;05行)と言われても、その画面を見た記憶のない2人には応答のしようがない。確認したことはないが、徹子ならば鉄矢が言及しているタイトル場面を見ており、適切な受け答えができたであろうと推測することができる。

断片7 大河ドラマ『竜馬がゆく』(07:37-07:46)

- 01 鉄矢： だからもう、むちゅうで見たの覚えてますよねえ：
 02 竜馬がゆく
 03 → あのタイトルバック、
 04 渡邊： → は：
 05 鉄矢： → ねっ。
 06 渡邊： でも、それ以来、じゃ、もう竜馬ですか。
 07 鉄矢： → (.) そ：です。
 08 渡邊： ねえ：
 09 鉄矢： ず：：と竜馬です。

この部分で、鉄矢は熱っぽく語っている。引いた映像で3人全員をカメラが捉えているため、「あ、タイトルバック」(03行)と言ったときに鉄矢が身を乗り出しているのがわかる。それを、あまり力のない「は：」(04行)で渡邊に受けとめられて、鉄矢は「ねっ」(05行)とさらに熱い同意を求めるような要請を行う。それにたいして「でも、それ以来、じゃ、もう竜馬ですか」とこれも冷静に対応されて、ちょっとあてが外れたのだろうか。鉄矢の「そ：です」という応答のまえにマイクロポーズが生じている(07行)。04行の「は：」を「あまり力のない」と形容したが、「気の抜けた」というほどではない。だが、鉄矢の熱っぽさには不釣り合いなものと、少なくとも鉄矢には感じられたようだ。このやりとりのあいだ、もうひとりのキャスターである後藤が2人を

「心配そうに」見ていて、やりとりに加わらなかったという点も指摘しておきたい。

もうひとつ、2つの番組で違うのではないかと思われるのは、以下のようなやりとりだ（断片8）。ここでは、鉄矢の母親イクの生活が描かれている。5人の子どもを抱えて家族のためによく働いたという話である。そこで、「あさ5時起きで豆腐売りにいった」（01-02行）と鉄矢が報告したのにたいして、それよりさらに早起きして豆腐作りもしていたのかと渡邊はたずねている（04行）。これは間違いであるために、マイクロポーズ後に鉄矢による修復を引きだすことになる（05;07行）。渡邊も自分の理解の不適切さに気づいたのか、小声で「売る」と発話している（06行）。豆腐はよそで作って、母親はそれを仕入れて売っていたということを理解したと受けとめをしているのが、渡邊ではなく後藤のほうである（08行）という点は注意しておきたい。

断片8 「それ以前からお豆腐をつくって？」（12:55-13:07）

- 01 鉄矢： → あさ5時おきでね .hhh
 02 → 豆腐売りにいったんですよ。
 03 (.)
 04 渡邊： → てゆうことはそれ以前からお豆腐をつくって？
 05 鉄矢： → (.) あいやいや。あの、豆腐をおろしてもらって
 06 渡邊： → [売る
 07 鉄矢： → [自転車に積んで、ちかくの団地に売 [りに行って
 08 後藤： → [あ：：：

このような「勘違い」は、徹子にはあまり見られないということが推測される。断片6の59行の拍手はこれに類するミスがあったことに対する反応と言えるのかもしれない。渡邊のおかしたミスは、イクの人生をよく知っていれば、エッセイ『母に捧げるバラード』（武田 1992）を読んでいると、NHK ドラマ『こら！なんばしよっと』シリーズを見ていれば、あるいは舞台『母に捧げるバラード』を見ていれば、しなかったような「愚問」なのかもしれないと思われるが、今後の検討を要する点だ。

本項、そして本節の結びとして、2つの番組の最後の部分を対比しておこう。

断片9 「功名が辻、ごらんくださいね」(53:48-53:53)

- 01 渡邊： え：、きょうは
 02 武田鉄矢さんで [した。
 03 後藤： [ありがとうございました。
 04 渡邊： → 功名が辻、ごらんくださいね。
 05 鉄矢： → どうぞ、ごらんくださ：い。
 06 後藤： あすのゲストは吉行和子さんです。

断片9は『スタパ』の終わりのところである。渡邊は「功名が辻、ごらんくださいね」と大河ドラマ『功名が辻』の宣伝で締めくくっている(04行)。鉄矢も「どうぞ、ごらんくださ：い」と応じている(05行)。この日の主題がはっきりと繰り返されている。

断片10 「おやりになるんですって」(32:13-32:59)

- 01 徹子： → なんかこんどおかあさまが亡くなるころまで
 02 → おやりになるん：ですって=
 03 鉄矢： =はいっ=
 04 徹子： =ん
 05 武田： こんどは：あのう (.)
 06 ((画面に舞台のポスターが映し出される))
 07 あのう娘たちが踊る、
 08 たわし踊りに送られて。
 09 徹子： huhu あ、ほんとに=
 10 鉄矢： =はいこんどは。はは [が、
 11 徹子： → [でも、あなたずいぶんお顔が
 12 → おかあさまのように品がいい顔になってます
 13 → [ねずいぶんまえにくらべると。
 14 鉄矢： [hhhhh
 15 徹子： (.) あれなんなんでしょうあれ、
 16 かつらのせいもあるかもしれないですけど
 17 (.) ねえ？=
 18 鉄矢： =いやあ、でも：やっぱり似てきますよ：
 19 徹子： あ [やっぱりお顔が似てらっしゃんのかしら [ね：え
 20 鉄矢： [え：。 [え：：

- 21 徹子： → (1.0) でも、どうでしょうねおかあさま
 22 → これ見てらしたらあなたの： (.) その
 23 (1.2)
 24 鉄矢： そう [ですね：
 25 徹子： [おかあさまをやら
 26 鉄矢： あの：劇場のどっかで見てると思うんですけど
 27 きつとよろこんでくれていると思って。
 28 (.)
 29 徹子： [そ：ですよね：
 30 鉄矢： [はい。父の分までがんばって
 31 [やろうと思います。
 32 徹子： [まあ
 33 → 親孝行ですよね=
 34 鉄矢： =はい。ありがとう [ございます。
 35 徹子： [hhh ほんとにね。
 36 鉄矢： hhh
 37 徹子： → どうも、ご成功祈ってますけど hh
 38 → お嬢様たちにもよろしくおっしゃってください。
 39 鉄矢： はい。どうもありがとうございます。
 40 徹子： どうも、ほんと：にあーとうございました。
 41 ((拍手))

断片10に見られるように、舞台『母に捧げるラストバラード』が締めくくりの話題となっている。そのポスターを見ながらの会話となっている。ひとつ注目したいのは、「なんかこんどおかあさまが亡くなるまでおやりになるんですって」という01-02行の発話だ。

黒柳：とにかく出来たもので勝負。生放送と同じです。編集はしないということを原則にしています。そこで、面白い話をさせていただくためには、私が説明をして、「これこれのことがあったそうですが、どうでしたか？」とお聞きすることもあるわけです。

永江：黒柳さんがゲストに「xx だったんですってね」と、かいつまんで説明してから質問をなさる、あそこのところが私はとても好きです。